

2022年3月期 第1四半期決算説明資料

2021年8月16日

FOR QUALITY CONFIDENCE



1. エグゼクティブサマリ	P.3
2. 第1四半期決算概況	P.8
3. 業績見通し	P.16
4. ソフトウェア事業環境と当社の優位性	P.24
5. 第1四半期決算補足	P.31

**2022年3月期
第1四半期
決算概要**

売上高は前年同期比22.7%成長 営業利益は積極的先行投資による影響でマイナス

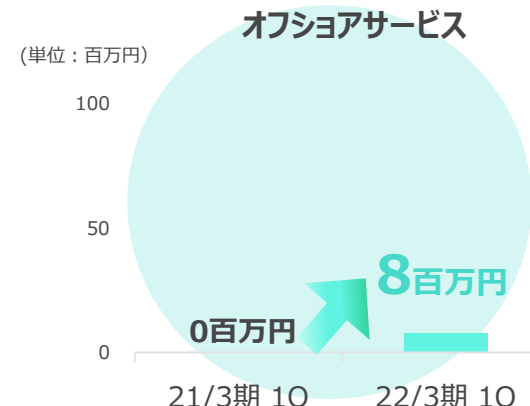
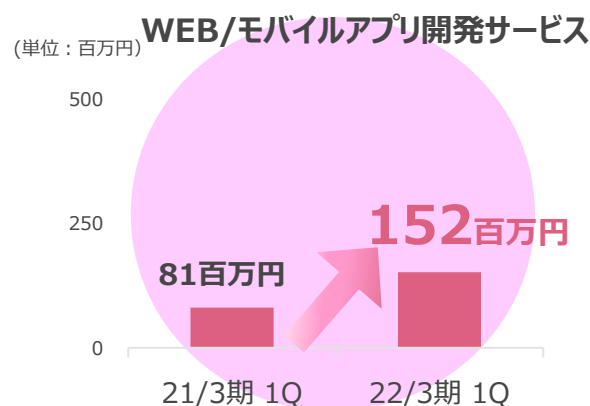
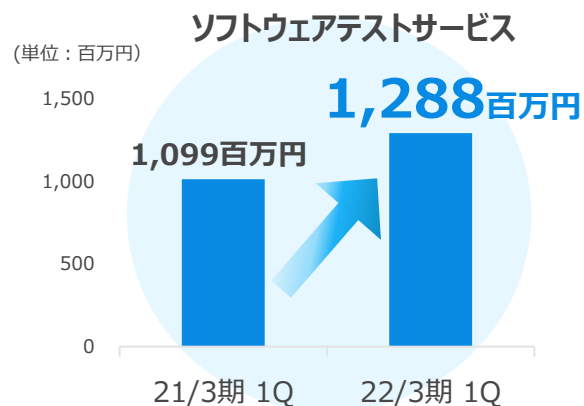
売上高	営業利益	親会社株主に帰属する四半期純利益
1,448 百万円	▲23 百万円	▲12 百万円
対前年同期比 +22.7%	▲77 百万円	▲45 百万円

稼働エンジニア数
※連結 協力会社含む **801**名 (前年同期比 +171名)

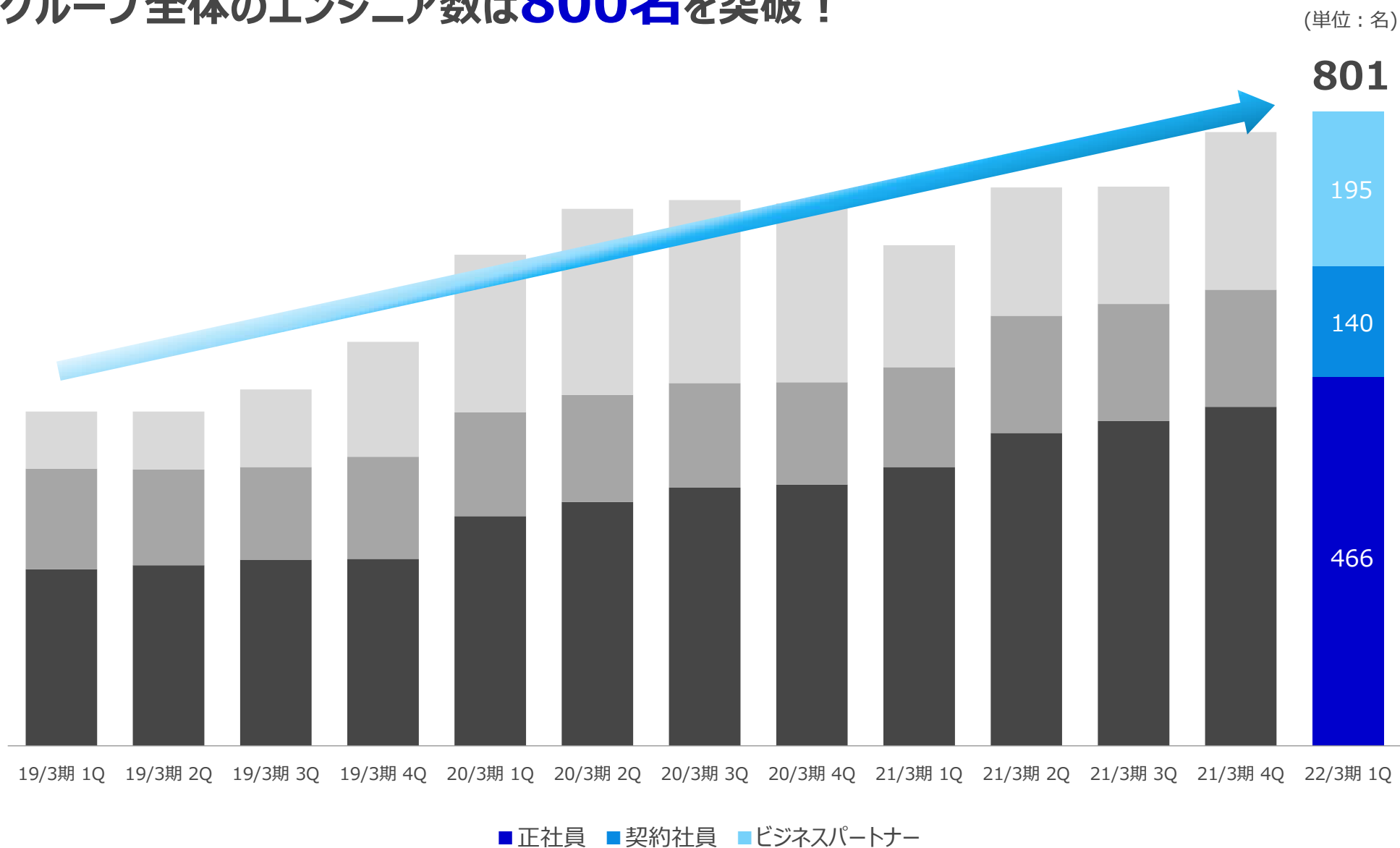
**2022年3月期
第1四半期の
トピックス**

- ・正社員採用数が1Qとして過去最高
- ・ソフトウェアテストサービス事業の1人当たり売上高が上昇
- ・上記事業の案件数は1Q時点で過去最高
- ・採用、研修の先行投資費用や不採算案件の発生

セグメント別外部売上高

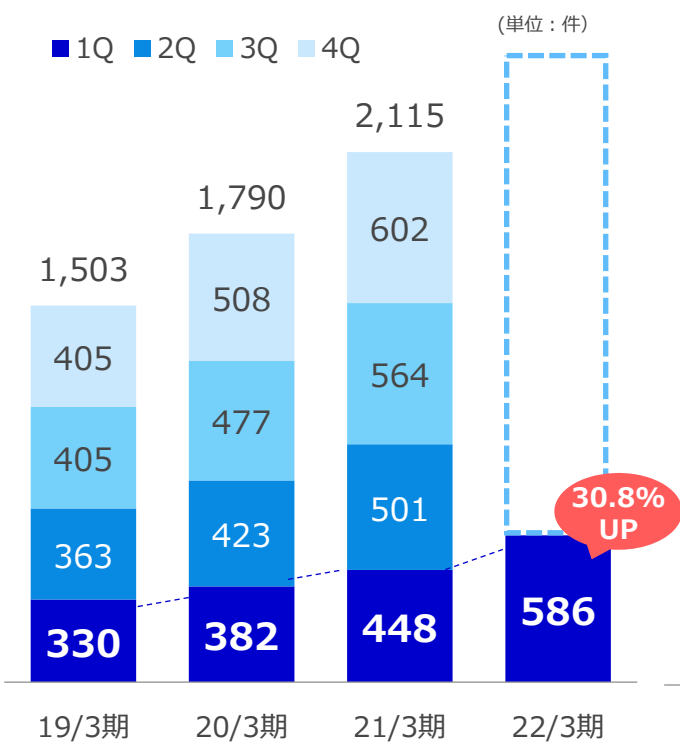


グループ全体のエンジニア数は**800名**を突破！

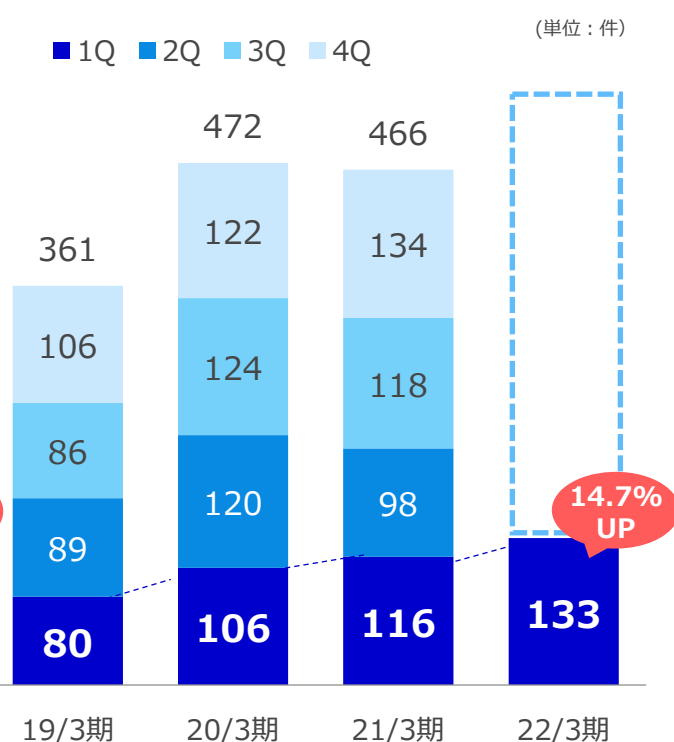


ソフトウェアテストサービス事業を中心に、3セグメントとも前年同期比で増加

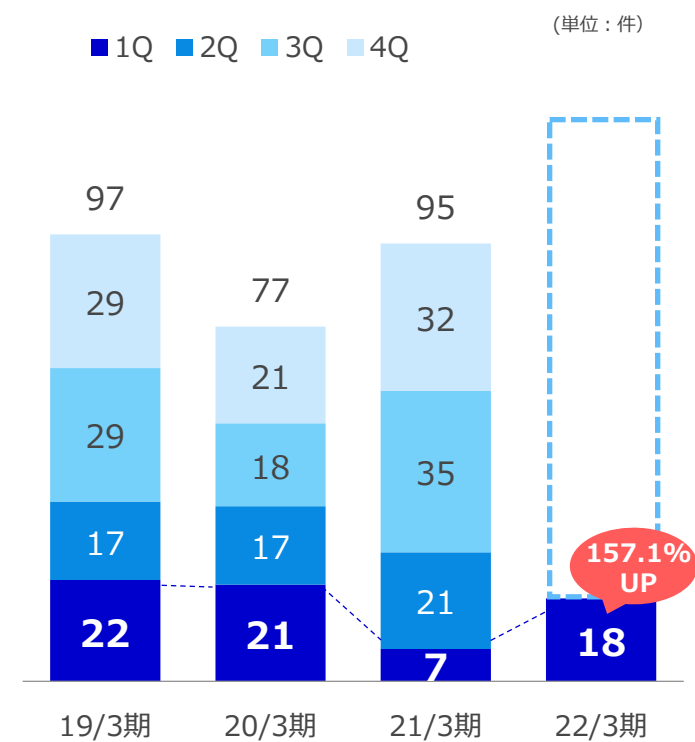
ソフトウェアテストサービス事業



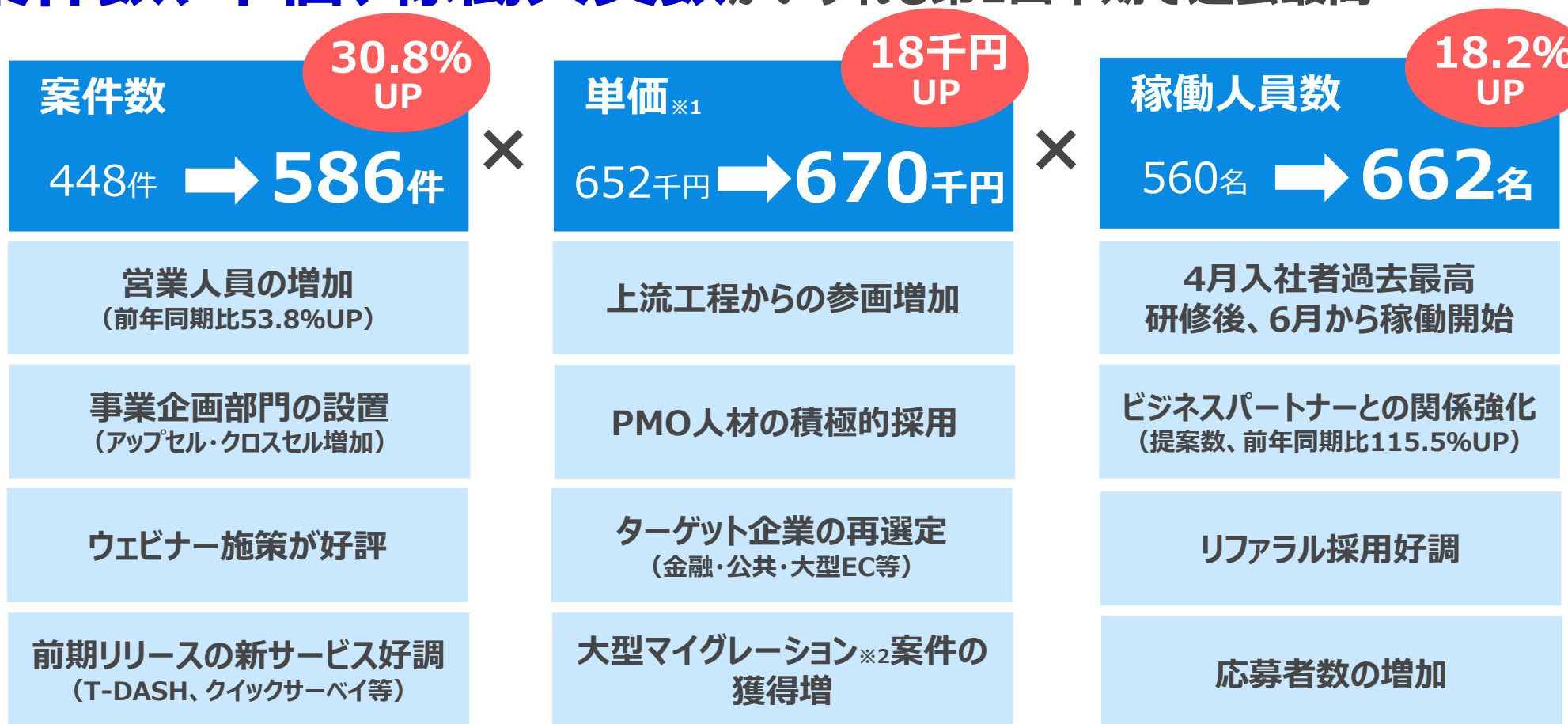
Web/モバイルアプリ開発サービス事業



オフショアサービス事業



案件数、単価、稼働人員数がいずれも第1四半期で過去最高

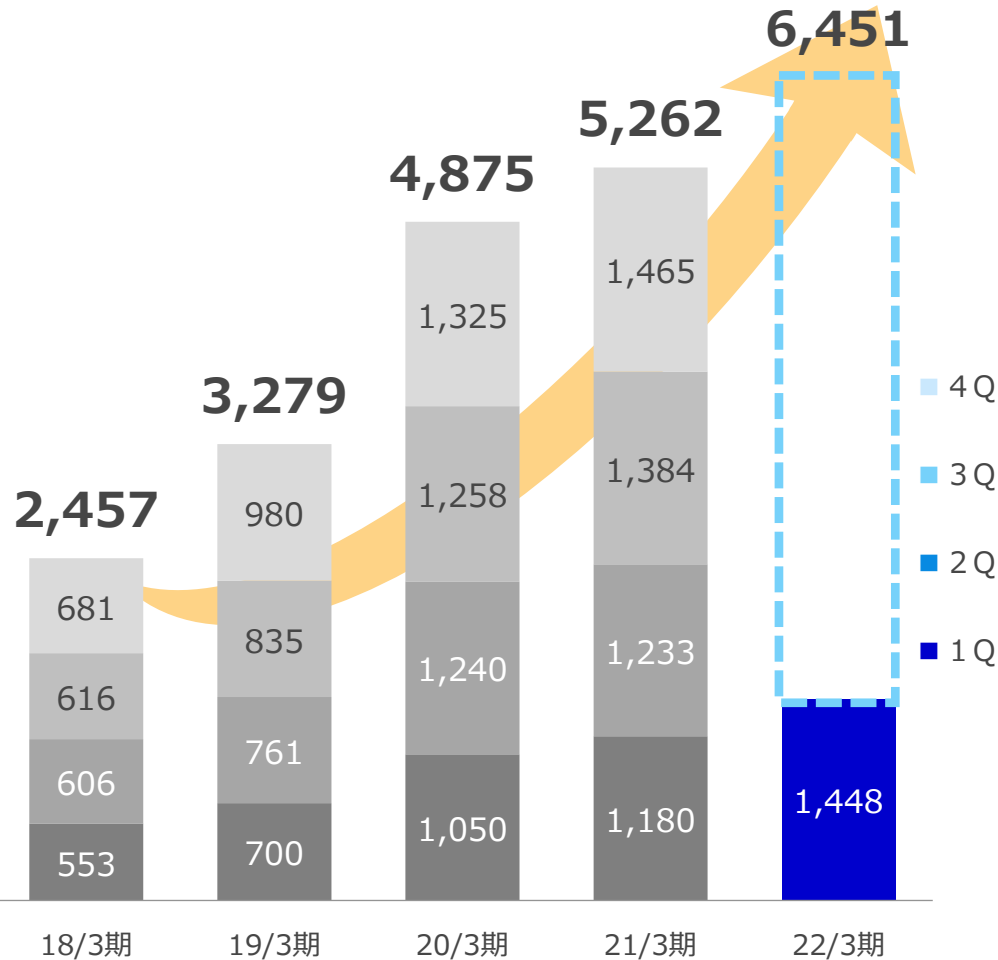


22年3月期の業績達成に向け、基盤が整う

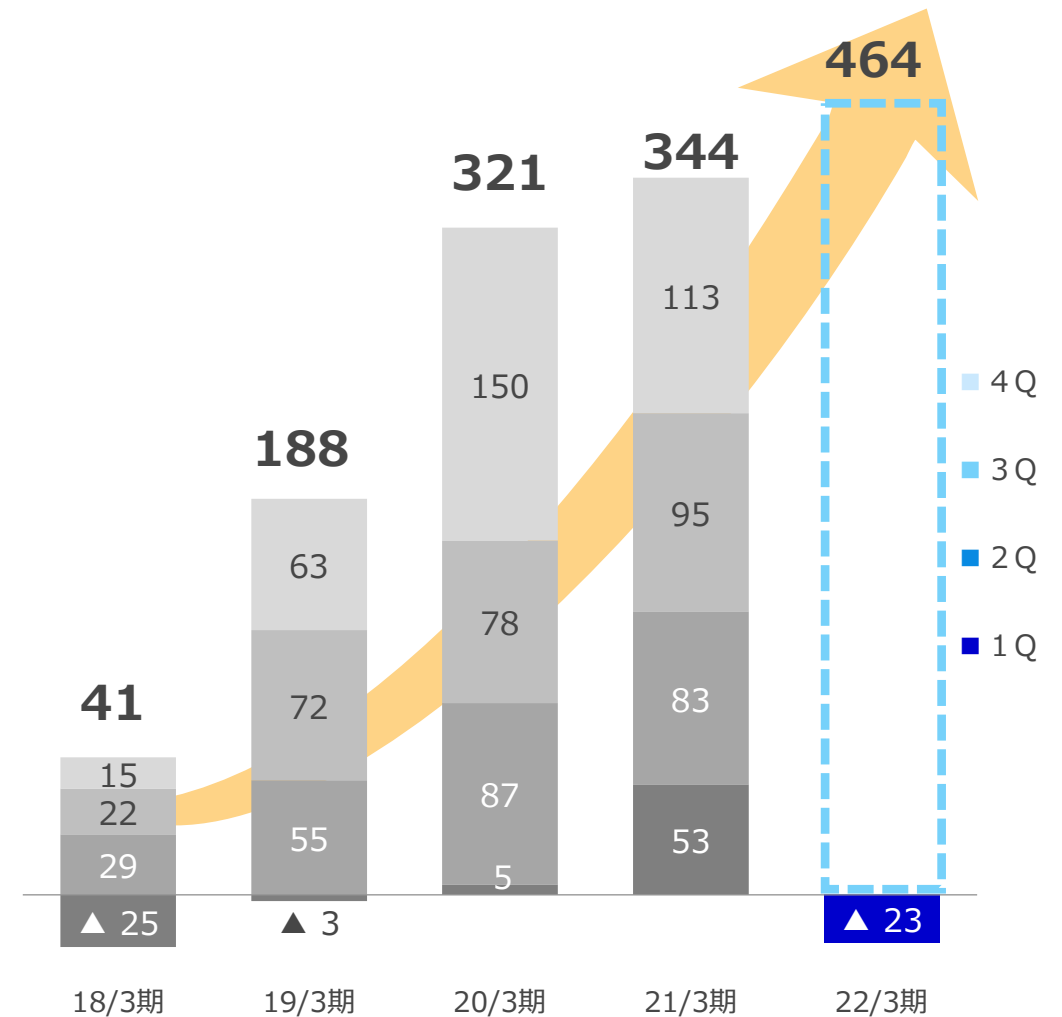
※1単価 (月間) = ソフトウェアテストセグメントの売上高 ÷ エンジニア数の延べ人数 (正社員+契約社員+ビジネスパートナー)
 ※2ソフトウェアやシステム、データなどを別の環境に移動したり、新しい環境に切り替えたりすること

ソフトウェアテストサービス事業を中心に増収となるが、1Q時点では営業損失

売上高 (単位：百万円)



営業利益 (単位：百万円)



2022年3月期 第1四半期決算概況



増収となるが、先行投資費用発生により1Q時点では損失計上

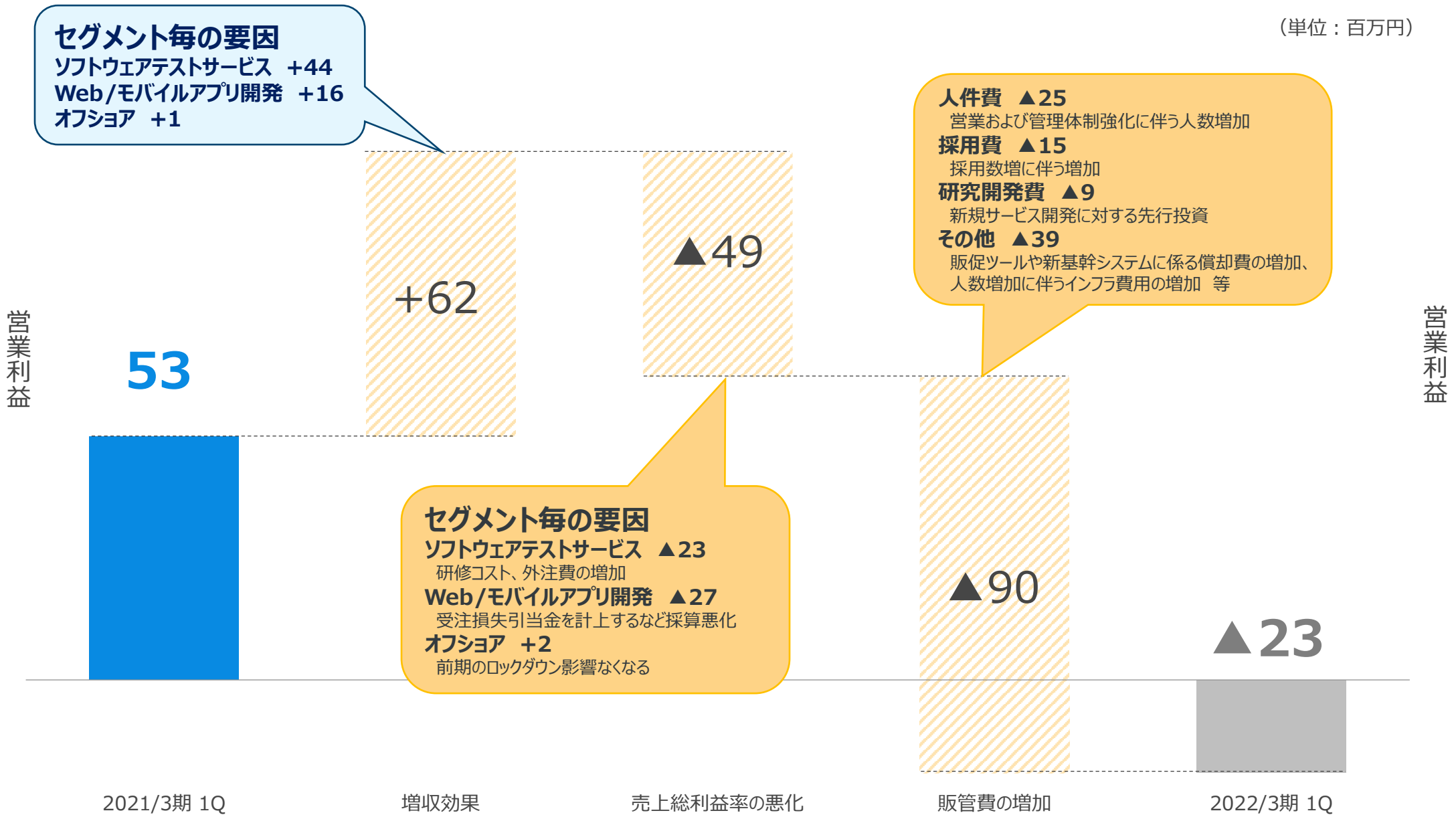
(単位：百万円)

	2021/3期 1Q	2022/3期 1Q	
	前期実績	実績	前年同期比
売上高	1,180	1,448	+22.7%
売上総利益	276	288	+4.7%
売上比	23.4%	20.0%	▲3.4pt
販管費	222	312	+40.9%
営業利益	53	▲23	—
売上比	4.6%	▲1.7%	▲6.3pt
経常利益	54	▲22	—
売上比	4.6%	▲1.5%	▲6.1pt
親会社株主に帰属する四半期純利益	33	▲12	—
売上比	2.8%	▲0.9%	▲3.7pt
EPS※	4.85	▲1.80	—

※1株当たり四半期純利益（親会社株主に帰属する四半期純利益÷期中平均株式数）

2022年3月期 第1四半期 営業利益の増減要因

(単位：百万円)



人材確保は順調、先行投資費用として販管費が増加

連結販管費内訳	2021/3期 1Q	2022/3期 1Q		
	(百万円)	(百万円)	前年同期比増減 (百万円)	前年同期比 (%)
販管費	222	312	+90	+40.9%
人件費	109	135	+25	+23.4%
採用費	29	45	+15	+51.7%
研究開発費	13	23	+9	+70.8%
その他	68	108	+39	+58.1%

人件費 ▲25 →営業および管理体制強化に伴う人数増加

採用費 ▲15 →採用数増に伴う増加

研究開発費 ▲9 →新規サービス開発に対する先行投資

その他 ▲39 →販促ツールや新基幹システムに係る償却費の増加、人数増加に伴うインフラ費用の増加 等

連結正社員入社人数 (エンジニア+販管部門)	2021/3期 1Q	2022/3期 1Q		
	(名)	(名)	前年同期比増減 (名)	前年同期比 (%)
総数 (うちエンジニア)	44 (40)	65 (56)	+21 (+16)	+47.7% (+40.0%)

全セグメントで**増収**、先行投資費用の発生や不採算案件により損失計上

(単位：百万円)

		2021/3期 1Q	2022/3期 1Q	
		前期実績	実績	前期比
ソフトウェアテスト サービス事業	売上高	1,099	1,297	+18.0%
	営業利益	71	22	▲68.6%
	利益率	6.5%	1.7%	▲4.8pt
	エンジニア1人当たりの売上高(千円)	652千円	670千円	+18千円
Web/モバイルアプリ開発 サービス事業	売上高	95	183	+92.6%
	営業利益	6	▲34	—
	利益率	6.3%	▲18.5%	▲24.8pt
オフショアサービス事業	売上高	2	23	+870.3%
	営業利益	▲6	4	—
	利益率	▲252.6%	21.2%	+273.8pt
セグメント間取引消去 及び全社費用	売上高	▲16	▲55	—
	営業利益	▲17	▲17	—
連結	売上高	1,180	1,448	+22.7%
	営業利益	53	▲23	—
	利益率	4.6%	▲1.7%	▲6.3pt

※エンジニア1人当たりの売上高（月間） = ソフトウェアテストセグメントの売上高 ÷ エンジニア数の延べ人数（正社員+契約社員+ビジネスパートナー）

ソフトウェアテストサービス事業

外部顧客向け売上高 1,288百万円/前期比 +188百万円 (うち収益認識基準適用による影響 +11百万円)

- 案件数、単価、稼働人員数がいずれも第1四半期で過去最高
- 大型マイグレーション案件及び新規大型再構築案件の**上流工程・PMO**として参画が増加。上流工程は小規模人数で難易度が高い工程、ここをフックに**当社本来のボリュームゾーンであるテスト工程**にて、大幅受注拡大を目指す
- **組織改編、ターゲット企業の再設定、ビジネスパートナーの関係強化の実施**

Web/モバイルアプリ開発サービス事業

外部顧客向け売上高 152百万円/前期比 +70百万円 (うち収益認識基準適用による影響 +31百万円)

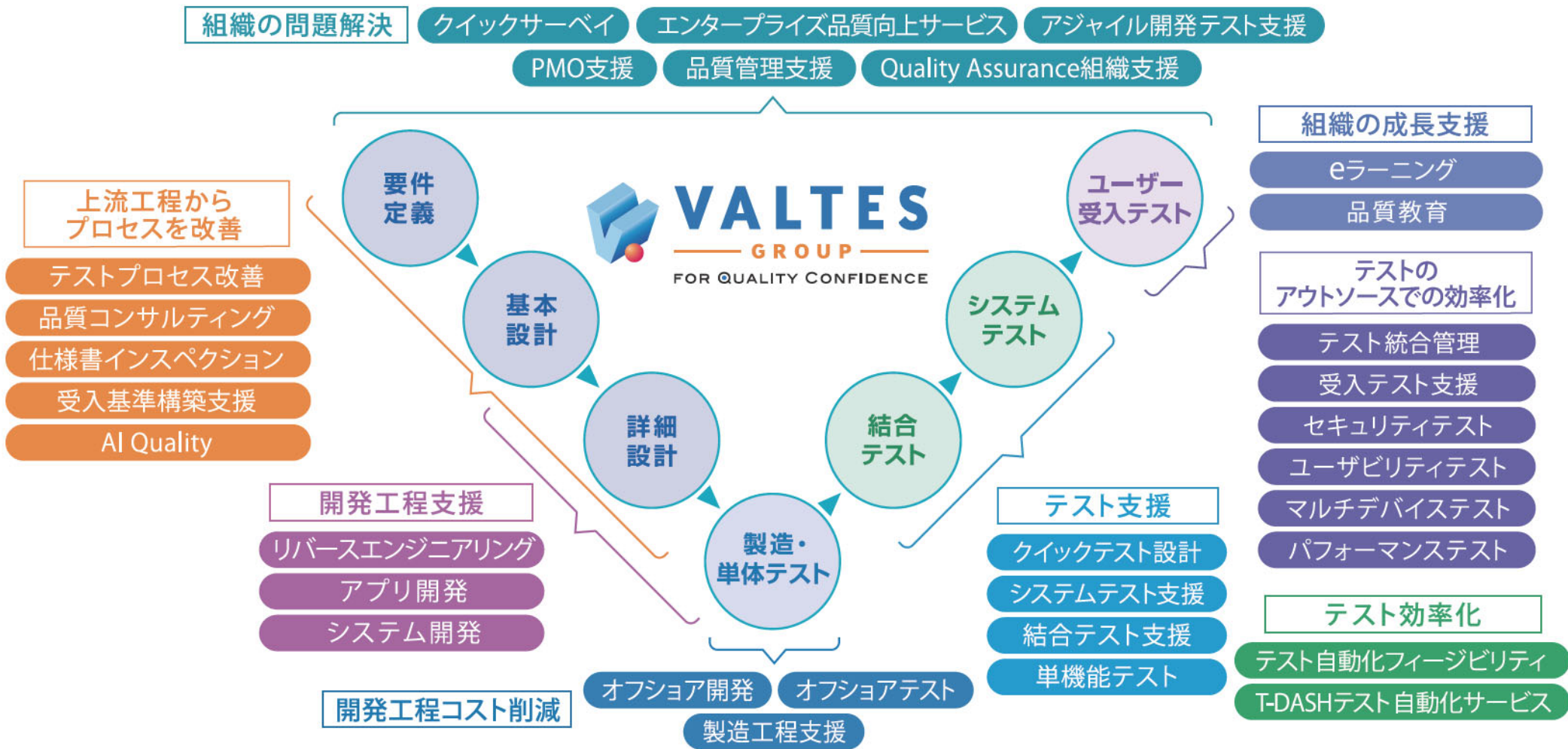
- 2020年9月末より新規連結した**アール・エス・アール社**が増収に寄与
- **セキュリティ・脆弱性診断**の売上高が堅調に推移。2022年3月期中にローンチ予定のWAFサービスとの相乗効果を目指す

オフショアサービス事業

外部顧客向け売上高 8百万円/前期比 +8百万円 (うち収益認識基準適用による影響 なし)

- フィリピンでは2020年3月からコロナでロックダウンが継続中。テレワーク環境を整え、外部顧客向け売上が**コロナ以前の水準**に
- 在比を含めた**日本企業との取引**が堅調に推移

ソフトウェア開発の全工程で、ソフトウェア品質の向上支援サービスを提供



新株予約権による資金調達から、当座貸越契約による借入へ変更

第3回新株予約権（2020年12月28日発行）を2021年8月31日付で取得・消却

※詳細は2021年8月16日付「第三者割当による第3回新株予約権の取得及び消却に関するお知らせ」をご覧ください



当座貸越契約に基づく資金調達枠を拡大 金融機関4行で総額**15億円**へ

※詳細は2021年8月16日付「当座貸越変更契約（借入極度額の増額）の締結に関するお知らせ」をご覧ください

資金使途

■ 運転資金

事業拡大を見据え、新規サービス開発への投資やM&A及び資本・業務提携に関わる投資に手元資金を活用しつつ、機動的かつ安定的な資金調達枠を確保し、成長戦略の実現へ

M&A 戦略

既存技術領域

エンジニアを多数抱えるSIer企業

toB向けパッケージ製品を持つソフトウェア企業

セキュリティ関連サービスを展開する企業

新規技術領域

バリューチェーン・プロセスを有する企業

2022年3月期

業績見通し



成長戦略の更なる強化により**コロナ禍でも売上、利益続伸へ**

(単位：百万円)

	2021/3期		2022/3期		
	前2Q累計 実績	通期実績	当2Q累計予想 (5/14公表)	当期予想 (5/14公表)	前期比
売上高	2,413	5,262	2,943	6,451	+22.5%
営業利益	136	344	108	464	+34.8%
売上比	5.6%	6.6%	3.7%	7.2%	+0.6pt
経常利益	138	347	109	468	+34.9%
売上比	5.7%	6.6%	3.7%	7.3%	+0.7pt
親会社株主に 帰属する当期純利益	87	246	70	305	+23.6%
売上比	3.6%	4.7%	2.4%	4.7%	+0.0pt
EPS (円)※	12.60	35.65	10.25	44.08	+23.6%

※1株当たり当期純利益（親会社株主に帰属する当期純利益÷期中平均株式数）

2021年5月14日に「2021年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」で公表いたしました当初予想から変更はありません。

ソフトウェアテストサービス事業

- 各社の大型案件に対し、**上流工程やPMO**からさらなる参画を狙い、下期、来期への売上拡大へ
- **金融系・公共系・大型ECサイト企業**など、ターゲット企業からの拡大を見込む
- 上期は**採用と教育研修に投資**し、下期偏重の売上に対応
- **当社のテスト・品質向上手法を身に付けた社員**で安定したプロジェクト品質を維持し、**ビジネスパートナー活用**により、案件ボリューム拡大へ

Web/モバイルアプリ開発サービス事業

- **脆弱性診断×WAF**でセキュリティ需要を取り込み売上拡大へ
- **VMT×RSRでエンジニア不足を補い**、営業体制の強化により開発案件獲得へ

オフショアサービス事業

- **日本企業との取引拡大**により各四半期で安定した売上へ
- ロックダウン状況下でも**テレワークにより安定稼働**
- 受注好調で、下期、来期の案件増加を見越し、**オフィスを増床**へ

既存サービス「セキュリティ・脆弱性診断」で顕在化したリスクへの対応にも有効的な クラウド型（SaaS型）WAF※サービス

※WAF : Web Application Firewallの略



■ 特徴

Web アプリケーションの脆弱性を突いた攻撃から Web サイトを守るためのセキュリティ対策を行うクラウド型（SaaS型）システム。

一般的なセキュリティ対策システムとは異なり、データの中身をアプリケーションレベルで解析できるのが特徴で、金融系サイトや ECサイトなど、幅広いWebサイトにおけるセキュリティ対策を実施可能。

脆弱性診断×WAF でセキュリティ対策を徹底サポート 2022年3月期中にローンチ予定

AI・人工知能システムに特化したテスト設計・検証サービス 「AI Quality (アイクオリティ)」



1 AIドキュメントインスペクション

当社独自のAI対応チェックリストで
貴社ドキュメントを網羅的に確認

2 AIプロダクト対応のテスト

AI独自の観点を用いて
効率的なテストを提供!

■ 特徴

AIプロダクトの開発における上流（プロジェクト計画、要件定義、設計）から下流（結合・システム・受入テスト）まで、各工程における品質保証のサポートを実施するサービス。

AI特有の観点をフォローすることで、AIシステム導入時に起こりがちな課題を解消。当社独自のチェックリストで、検証の抜け漏れを防止する。

■ 提供開始の背景

- DXの方針により、AIシステム活用のシーンが増えることが想定されるため
- AIシステムの導入に際し課題を抱える企業が多いため

■ 提供開始日

2021年6月1日

AIプロダクト開発の上流から下流まで、各工程で品質向上をサポート

<市場環境>

 最大で**約79万人**のIT人材不足

IT需要が今後拡大する一方で、我が国の労働人口（特に若年人口）は減少が見込まれ、IT人材の需要と供給の差（需給ギャップ）は、2030年には、最大で**約79万人**に拡大する可能性

引用元：次ページ参照



各企業ますます**アウトソース化**の流れへ

新卒
未経験者



オンライン
教育体制

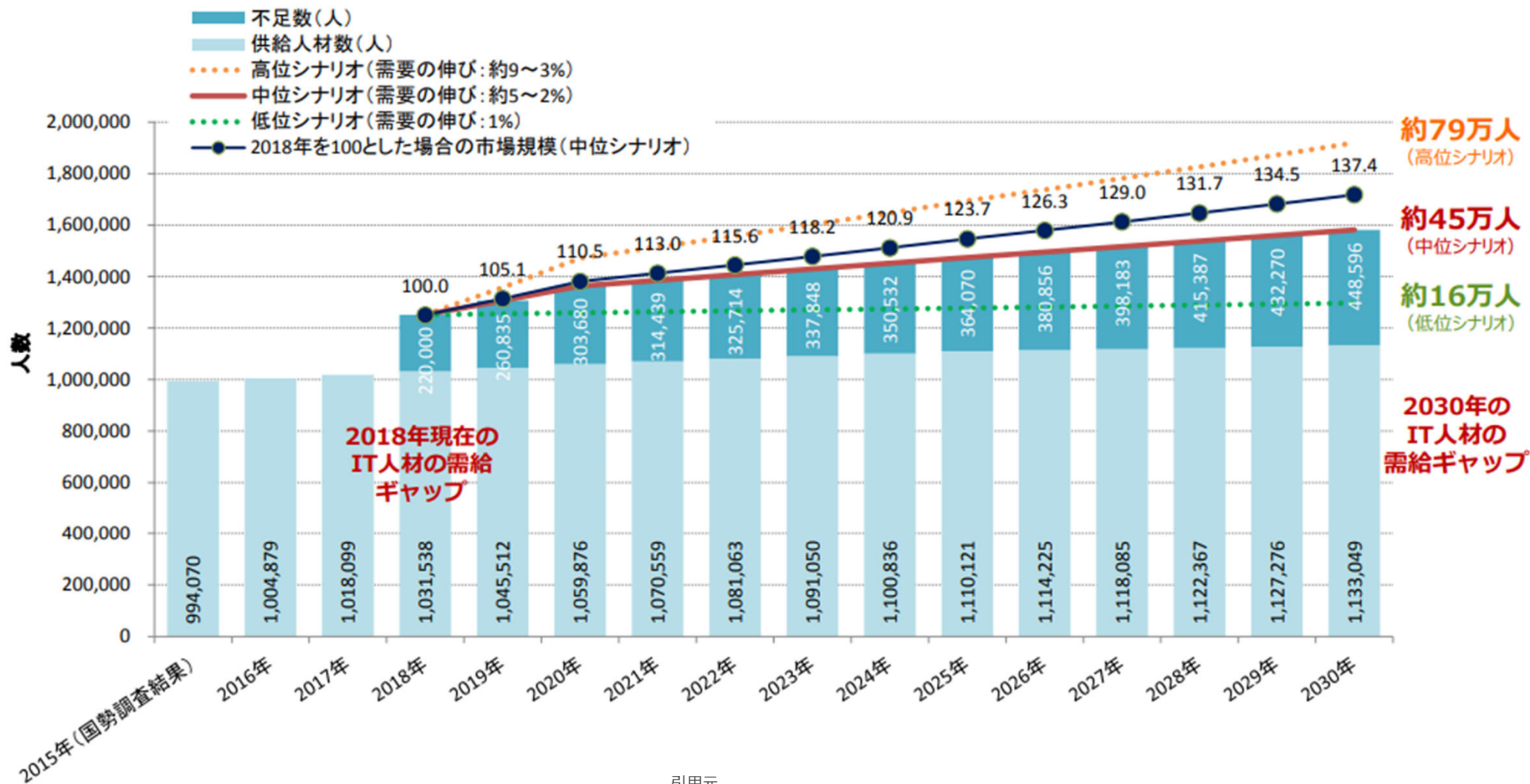


未経験者をエンジニアに育成出来る充実した社内研修システムを保有
オンライン研修で**採用数増加**にも対応

320時間

未経験者でも短期間で
高スキルエンジニアへ育成出来ることが当社の強み

(参考) 今後のIT人材の不足予測に関して

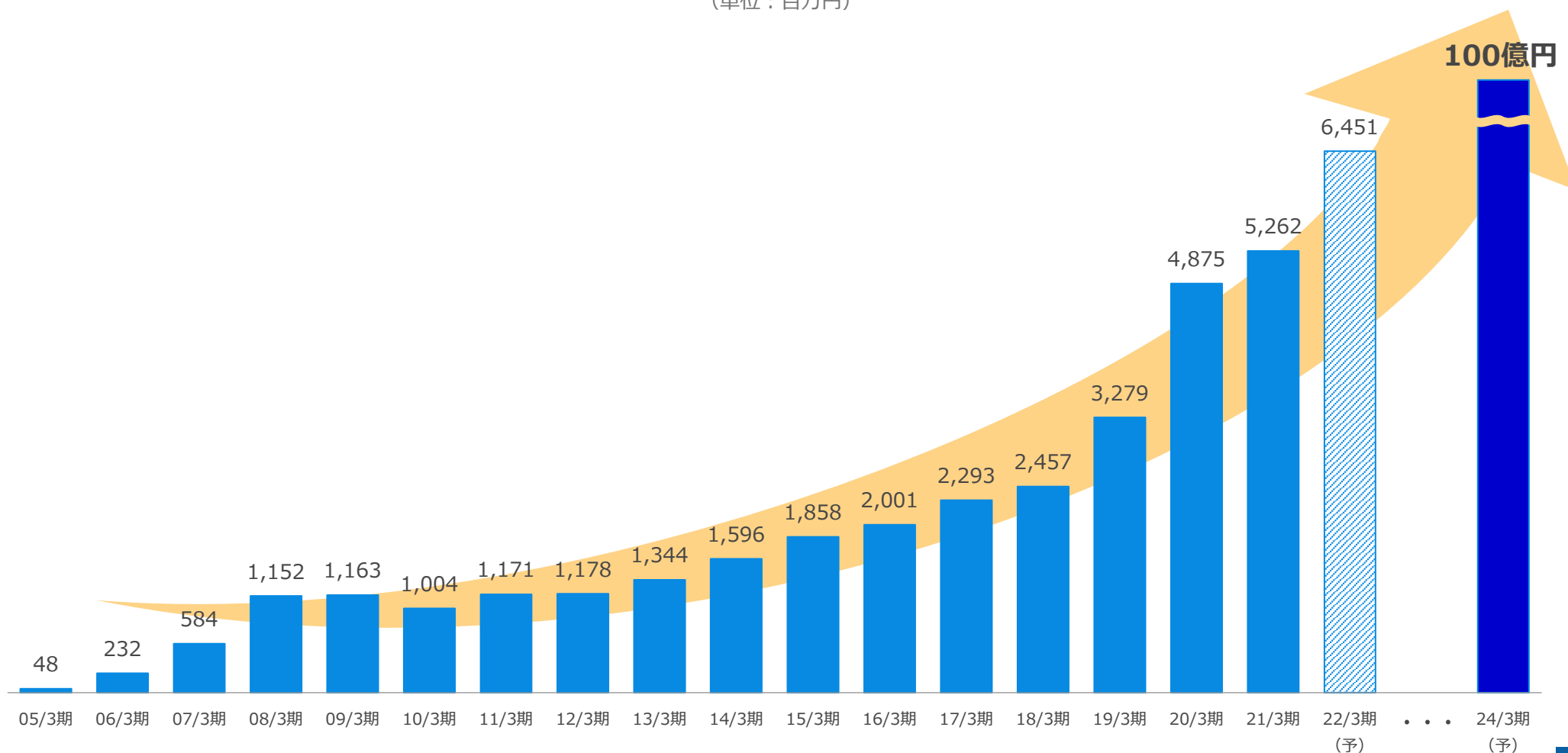


引用元
 経済産業省 IT 人材需給に関する調査「報告書本体」(https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/houkokusyo.pdf)
 図 3-11 IT 人材需給に関する主な試算結果①②③の対比 (生産性上昇率 0.7% IT 需要の伸び「低位」「中位」「高位」)

ソフトウェアテスト市場の成長から、2024/3期に売上高**100億円**を目指す

売上高の推移

(単位：百万円)

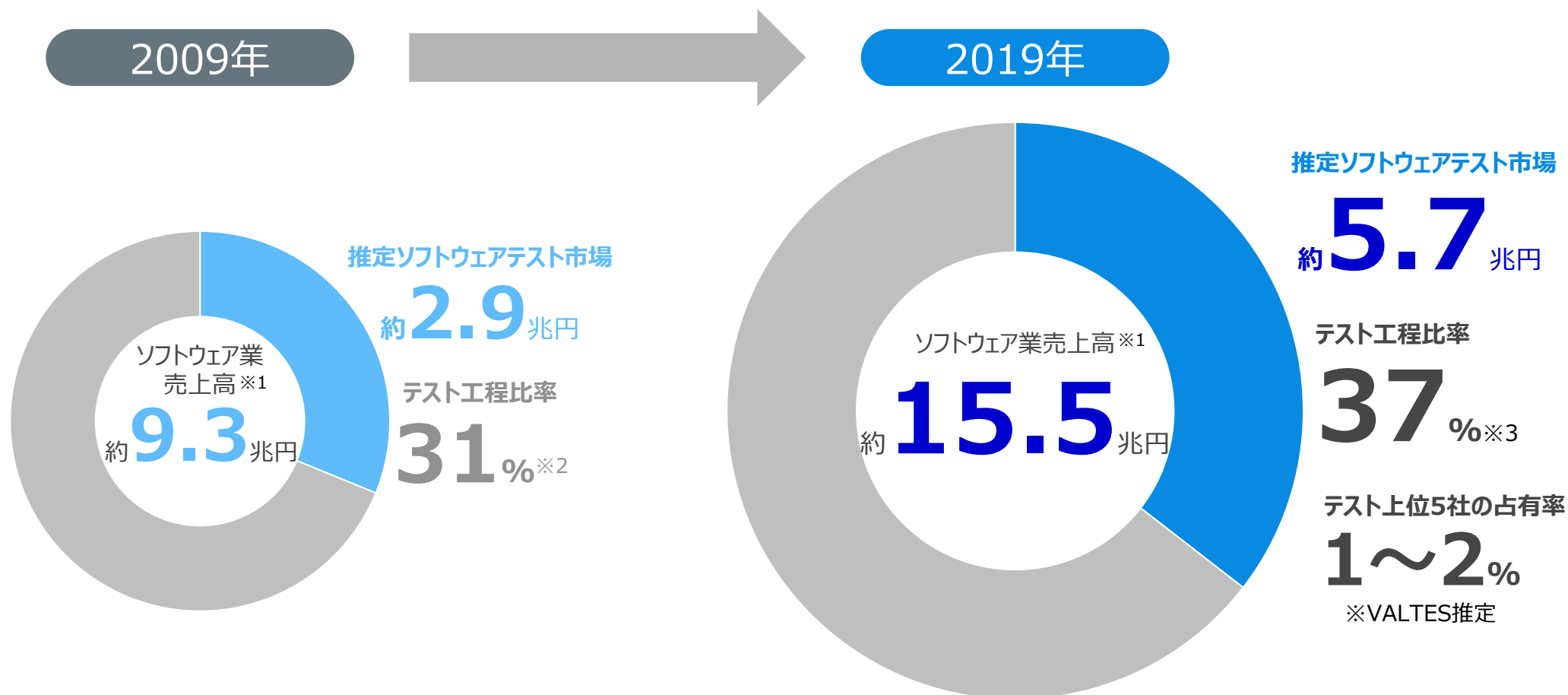


ソフトウェア事業環境と 当社の優位性



当社が推定する日本のソフトウェアテストの市場規模は約5.7兆円

ソフトウェア業売上高に占めるテスト工程比率の推移と市場規模推計



※1 総務省・経済産業省「情報通信業基本調査」より

※2 独立行政法人情報処理機構（IPA）「ソフトウェア開発データ白書」より

※3 独立行政法人情報処理機構（IPA）「ソフトウェア開発分析データ集2020」より

「デジタル庁の創設」や「コロナ禍で進んだ社会の変化」により、**DXが加速**

コロナ禍で進んだ社会の変化

- ▶テレワークの定着
- ▶EC消費の定着
- ▶オンラインコミュニケーションの定着
- ▶余暇時間の増加

デジタル庁の創設

- ▶国・自治体のシステムの統一
- ▶行政のオンライン化
- ▶品質意識の向上(コロナ禍での不具合続出)

デジタルトランスフォーメーション (DX) 加速

2.セキュリティリスク増

セキュリティサービス
需要の増加

1.ソフトウェア開発

エンタープライズ領域の
ソフトウェアテスト
需要の増加

3.人材不足

人材不足を解消する
手立てがカギ

ソフトウェアテストはソフトウェア開発企業から**テスト専門企業**へ

ソフトウェア開発企業の悩み

- コストが高い開発担当者の労働時間の約4割がテスト・検証に割かれる
- テスト・検証は開発者のモチベーションが上がらない為、非効率
- 開発者自身がテスト・検証を行うのは客観性が無く信頼性に欠ける

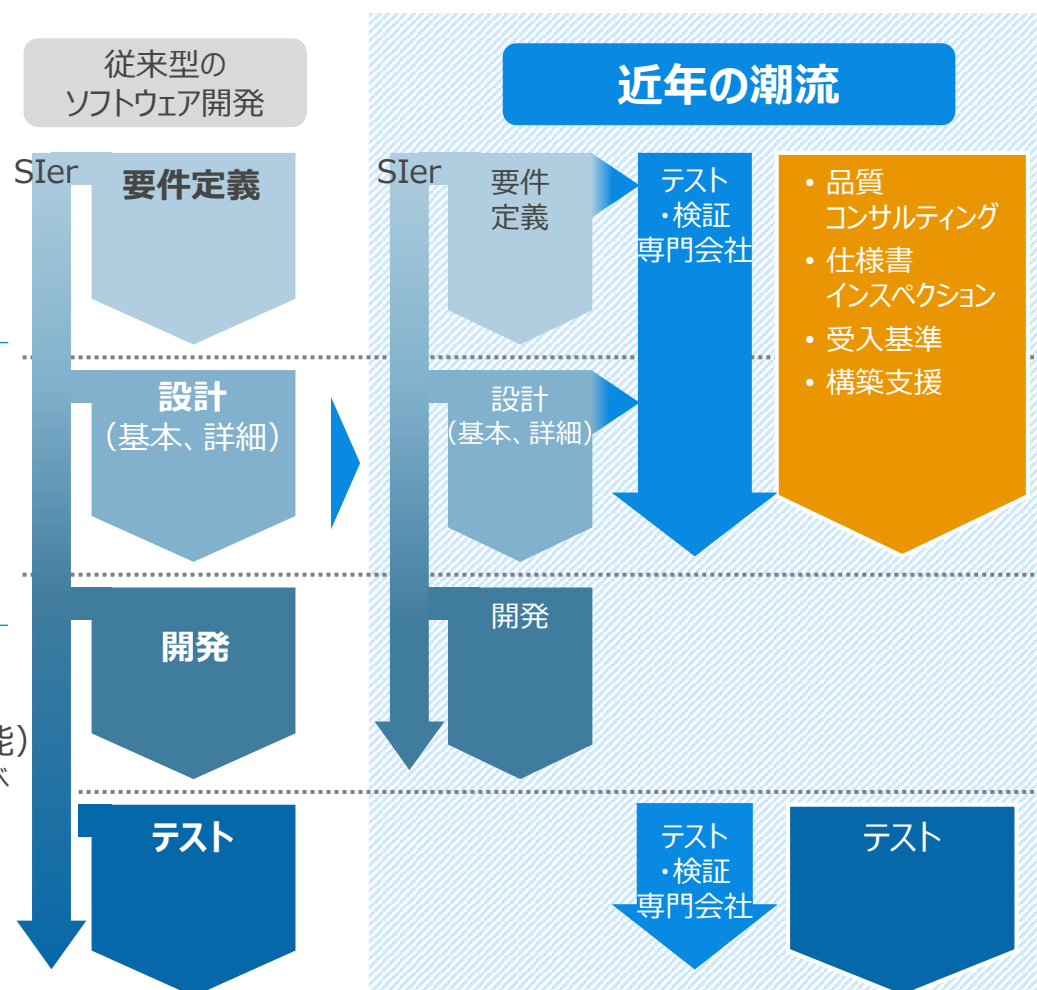
テスト工程がアウトソースされなかった理由

- 日本では大手SIerが案件を一括受注し、傘下の下請け・孫請けに発注している状況で、開発エンジニアがテスト工程まで行う構造であった

テスト工程のアウトソース化が加速！

- 開発担当者によるテスト時間の短縮により、開発コストが減少
(開発担当者がテストを実施する場合の※**60%~70%程度**で対応が可能)
※当社調べ
- 再現性・共有性の高いテストの方法論が確立（各社独自のメソッド）
することで**網羅的で高効率**なテストが実現可能に
- 第三者のテスト専門会社によるテスト・検証の有効性が注目

ソフトウェア開発の業務フローの変遷



重点領域であるエンタープライズ領域が堅調に成長

市場環境

基幹システムの老朽化により、デジタルトランスフォーメーション（DX）が進まなければ、経済損失が最大年間12兆円とも
出所：2018年「DXレポート～ITシステム「2025年の崖」克服とDXの本格的な展開～」経済産業省

デジタルトランスフォーメーション（DX）の進展

- ①長期使用による基幹システムの老朽化
- ②大容量高速通信時代の到来

マイグレーションの負担増→コスト増・品質懸念

ソフトウェアテスト依頼の増加へ

特徴

- 単価 **高** 案件規模 **大** 契約期間 **長**
- システム開発、業務知識など、テスト以外の知識が求められる **難易度高**

テスト工程の周辺市場との比較 当社の事業領域

	潜在市場規模	市場ステージ	参入障壁
テスト工程市場	エンタープライズ系	巨大	黎明期
	組込み系	大	黎明期
	Web・スマホ系	中	成長期
	エンターテインメント系	小	成熟期



エンタープライズ専門部署を
2020年4月から設立、
組織拡大中

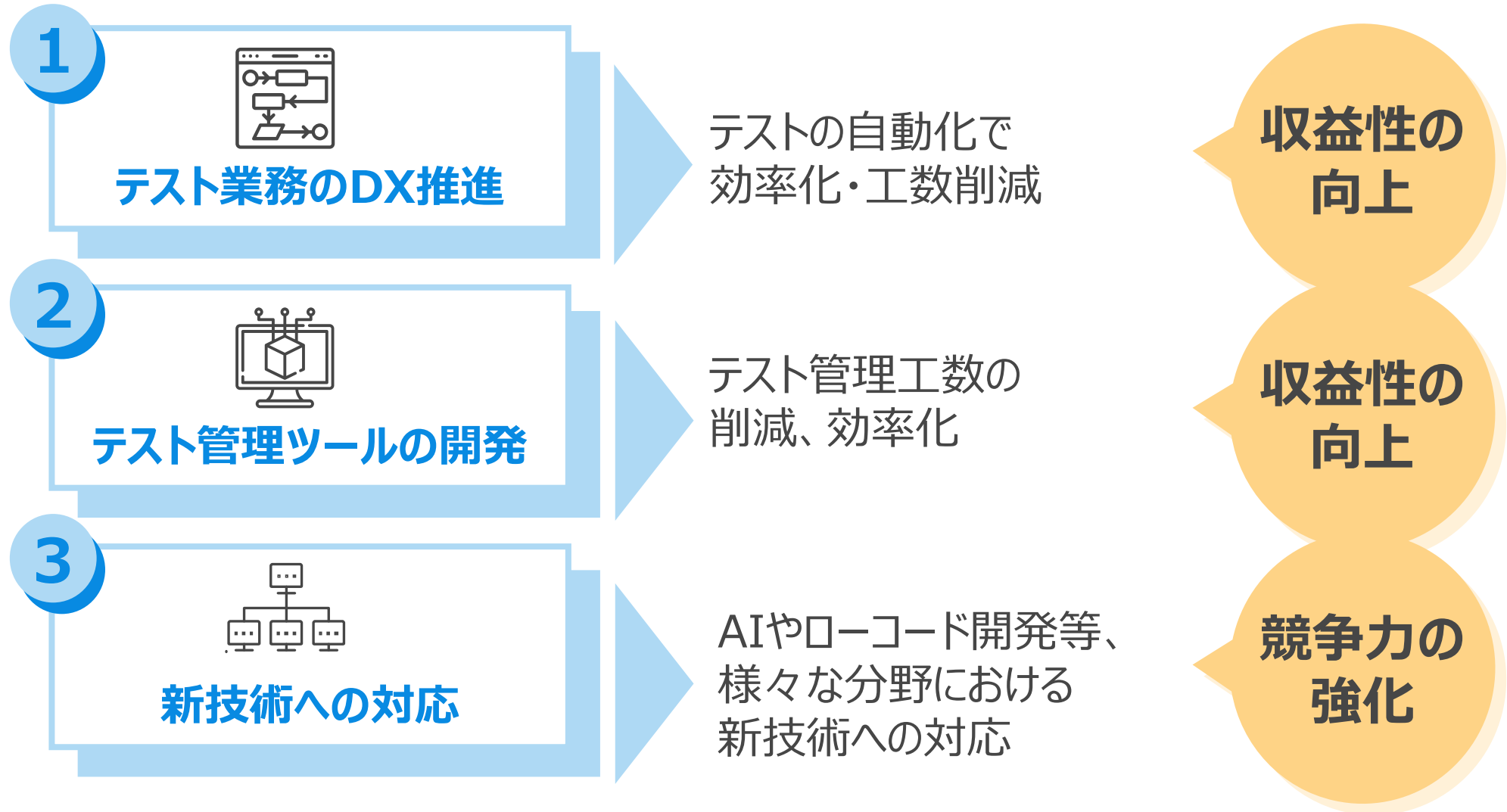


当社の優位性

- 経験豊富な**ハイレイヤーの採用**
- エンタープライズ領域に強い人材を供給可能な**外部協力会社との取引拡大**
- 長年蓄積された質、量ともに豊富な**当社のテストノウハウ**
- テストノウハウをプログラム化した実践的な研修を**全員が受講**
- 上流工程**からの品質支援ニーズに対応



内部留保とのバランスを意識しつつ、新技術の開発に**積極的に投資**



教育体制の充実を図り、優秀な人材確保の**更なる強化**

新卒
未経験者



キャリア



オンライン
教育体制



多様な採用チャネルで、**正社員**エンジニア採用数**56名**！（2022年3月期1Q実績）

充実した社内研修システムによる**早期の安定稼働に**
コロナ禍でオンライン研修へ移行後も、**高スキル人材の輩出を実現**

320時間

160時間

成長戦略に必要な優秀な人材の確保

JSTQB保有率 **92%以上***

*入社2年目以降の正社員取得率

日本初のグローバルパートナー



2022年3月期 第1四半期決算補足



	2021/3期 1Q		2022/3期 1Q			
	(百万円)	売上高比 (%)	(百万円)	売上高比 (%)	前年同期比増減 (百万円)	前年同期比 (%)
売上高	1,180	100.0	1,448	100.0	+267	+22.7%
売上原価	904	76.6	1,159	80.0	+254	+28.1%
労務費	609	51.6	762	52.6	+153	+25.1%
外注費	258	21.9	312	21.6	+53	+20.8%
その他	37	3.2	27	1.9	▲9	▲26.7%
販管費	222	18.8	312	21.6	+90	+40.9%
人件費	109	9.3	135	9.3	+25	+23.4%
採用費	29	2.5	45	3.1	+15	+51.7%
研究開発費	13	1.2	23	1.6	+9	+70.8%
その他	68	5.8	108	7.5	+39	+58.1%

(単位：百万円)

	2021/3 期末	2022/3 1Q	前期末差
資産の部			
現金及び預金	1,190	1,120	▲69
売掛金+契約資産	727	698	▲28
流動資産合計	2,019	1,893	▲125
有形固定資産	101	100	▲1
のれん	68	67	▲1
ソフト+ソフト仮	133	132	▲1
無形固定資産合計	202	199	▲2
投資その他の資産	218	229	+11
固定資産合計	522	529	+7
資産合計	2,541	2,422	▲118

	2021/3 期末	2022/3 1Q	前期末差
負債の部			
買掛金	115	116	+1
短期有利子負債	146	146	▲0
未払金	339	338	▲1
流動負債合計	958	858	▲99
長期有利子負債	76	71	▲5
固定負債合計	84	77	▲6
負債合計	1,042	936	▲106
純資産の部			
株主資本合計	1,494	1,482	▲12
純資産合計	1,498	1,486	▲12
負債純資産合計	2,541	2,422	▲118

Appendix

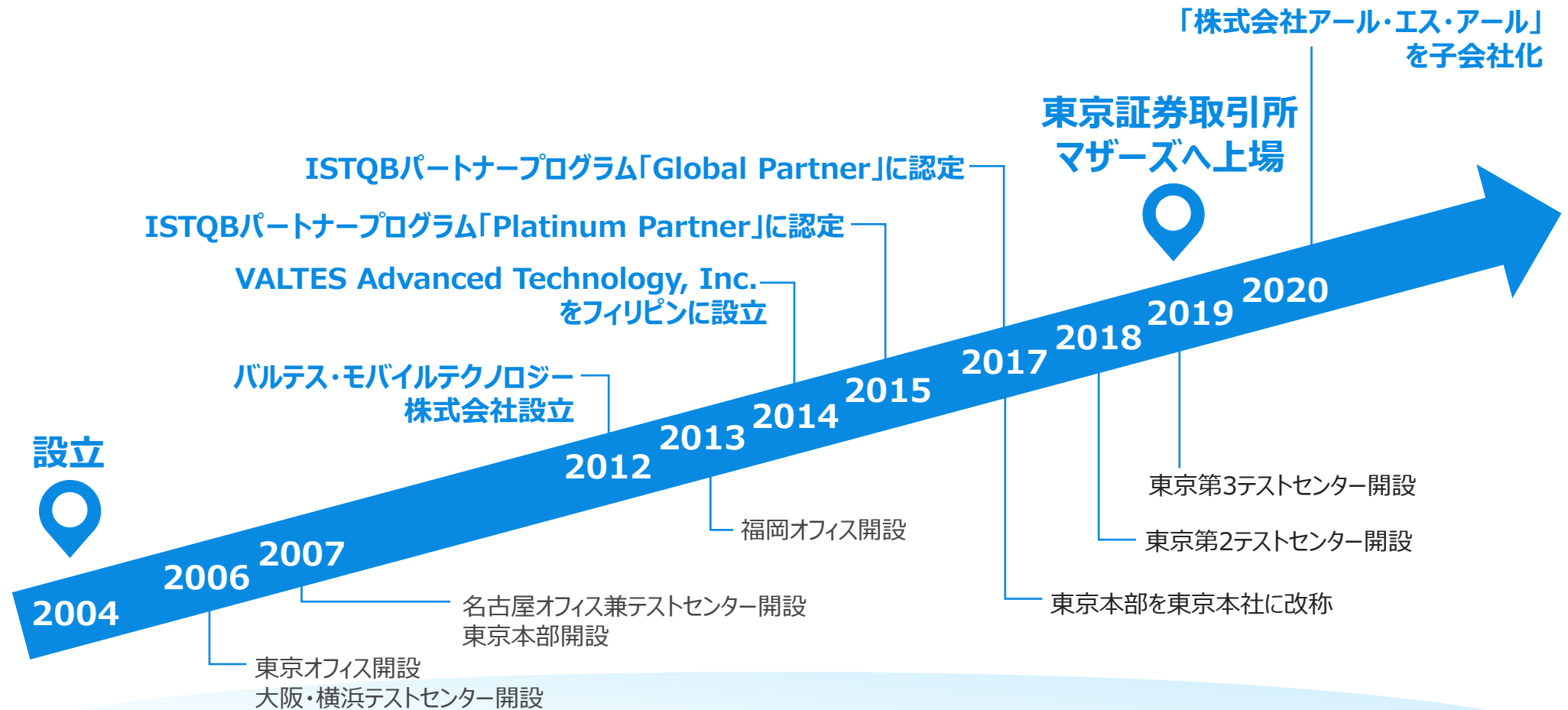
会社概要



「品質向上のトータルサポート企業」を経営方針に掲げ、事業を展開

会社名	バルテス株式会社
会社設立	2004年4月
上場	2019年5月（東証マザーズ 証券コード：4442）
本社住所	大阪市西区阿波座1-3-15（大阪本社）
事業内容	ソフトウェアテストサービス 品質コンサルティングサービス ソフトウェア品質教育サービス セキュリティ・脆弱性診断サービス
子会社	バルテス・モバイルテクノロジー株式会社 株式会社アール・エス・アール VALTES Advanced Technology, Inc. (Philippines)
従業員数	690名（2021年6月末 グループ4社計）
内、総エンジニア数	603名（2021年6月末 グループ4社計）
総資産	2,422百万円（2021年6月末 グループ4社連結）

2004年4月、設立。ソフトウェアの品質に関わるサービスを提供。
ソフトウェアテスト専門会社として、**年間2,100件以上**のプロジェクト実績を誇る



社名の由来

Value created through Testing



「テストを通じて価値を創造する会社」という意味が込められています。

グループスローガン

VALTES

FOR QUALITY CONFIDENCE

VALTES for Quality Confidence に込めた想い

「お客様の品質に対する自信を揺るぎないものにしたい」
技術を磨き続け、品質向上に貢献し、より良い製品で社会を豊かにする。
バルテスグループは、ソフトウェア品質のさらなる高みを目指し続けます。

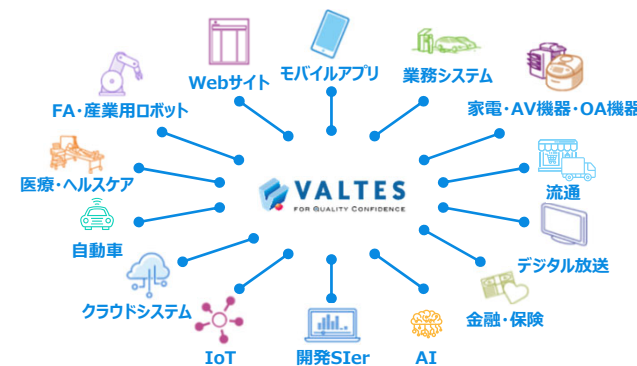
高スキル エンジニア

- ▶ エンジニア適正試験
- ▶ 独自の研修カリキュラムによる早期戦力化
- ▶ JSTQB※1保有率 92%以上！
(入社2年目以降の正社員)
- ▶ ISTQB※2 Global Partner
※全世界9社のみ、**日本初！**



豊富な実績

- ▶ 年間2,100プロジェクト、600社以上の導入実績
- ▶ 業種毎の豊富なテスト観点



標準化・ プロセス

- ▶ IEEE※3829※4準拠テンプレート
- ▶ QUINTEE※5 (テストの進行基準)
- ▶ 標準化されたテスト設計手法による
抜け漏れ・誤認識を排除

フロー	テスト計画	テスト設計	テスト実施	サマリ提出
概要	テストの目的・範囲を決定し、プレのな いテストを構築	テストマップやテスト技法で効率的なテ ストを実現	単機能、複合機能、シナリオを実施し、 ロスを最小限に	テスト結果を数値で見える化。次期開発に 役立つ情報を提出
	メソッド1 スコープを決めたテストの落とし込み	メソッド4 テスト技法を駆使したテスト設計		メソッド6 テストサマリによるテスト戦略フィードバック
成果物	WBS 機能一覧	テスト設計 仕様書 テストマップ 因子水準表	テストケース インシデントレポート テストログ テスト実施結果	テスト サマリレポート
	メソッド5 ドキュメンテーションによる段階的 レビューと高度化	メソッド3 ドメインごとに整備された テスト観点ライブラリ テストマップによりテスト全体を俯瞰		

※1 : JSTQB(Japan Software Testing Qualifications Board)とは、国内のソフトウェアテスト技術者認定組織のこと

※2 : ISTQB(International Software Testing Qualifications Board)とは、世界130か国のテスト技術者認定組織のこと

※3 : IEEE (Institute of Electrical and Electronics Engineers) とは、米国に本部を置く、電気・情報工学分野の学術研究団体、学会、技術標準化機関のこと

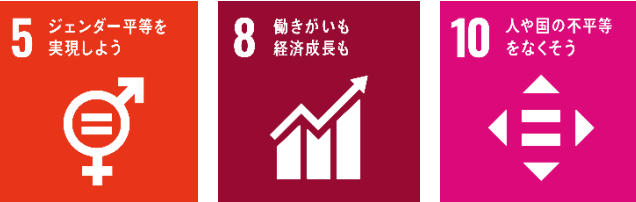
※4 : IEEE829とは、テスト工程で作成するドキュメントの定義のこと

※5 : QUINTEEとは、当社がソフトウェアテストを主軸に、品質向上・生産性向上に関連する知見を体系化したもの

働きやすい環境の整備

IT人材の創出

技術革新の拡大を図る



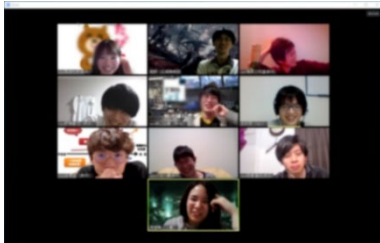
- 男性育休制度導入
- 働き方改革
- ホワイト企業認定
- 必要に応じて、抗原検査キットやPCR検査を従業員に無償提供
- パートナーシップ制度の導入



【社員インタビュー】男性社員の育休取得実績



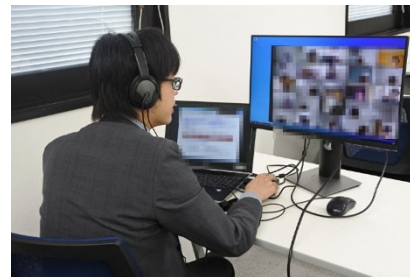
▲育休実績のある男性社員のインタビュー記事を、社内でも積極的に展開し、取得を推奨



▲オンライン懇親会制度などを設けて在宅勤務社員のフォローも実施



- 充実した社内研修システム
- 当社のソフトウェアテストノウハウを生かした資格支援サービスの提供
- ソフトウェアテストに関する技術書籍の出版
- ソフトウェア品質向上プラットフォーム『Qbook』の運営
- テスト技術をゼロから学べる無料eラーニングコンテンツの公開



▲未経験者は2カ月、経験者でも1カ月の入社時研修を実施



- 京都工芸繊維大学との共同研究論文を発表
- ソフトウェア製品の品質確保のために世界中の企業とパートナーを組むことで目標達成を実現

安心・安全なまちづくり



- ソフトウェア製品のテストを実施し品質を確保することで、安心・安全なICT社会を実現

ご留意事項

本資料には、当社グループの現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
これらの将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに当社が計画・予想したものであります。
実際の業績などは、今後の様々な条件・要素により、この計画・予想などとは異なる場合があります。
この資料は、その実現を確約したり、保証するものではありません。
なお、この資料への公認会計士、監査法人の関与はございません。

